

生活知恵袋

せいかつちえぶくろ

Vol. 101

今月のテーマ 第4の固定費、今どきの生命保険事情

先月号では家計チェックの一環として「生命保険をチェックする」と題し、生命保険の加入前に押さえておくべき周辺の知識を解説してきた。ここからは、具体的な商品や新たな仕組みに着目し、今どきの保険事情を解説してみよう。

生命保険はその誕生以来、時代の変化とともに種類も多様化し、保障内容も大きく変化し、ますます複雑化している。保険料（掛金）にあつては、新たな保険料区分も登場し、高くなったもの、逆に安くなったものもあり放置しておいてはいけない。

近年、ゼロ金利・マイナス金利の施策もあり、金融商品の運用環境は大きく変貌し、頭を抱える今日この頃だ。生命保険も例外ではなく、長引く資金の運用環境の低迷から生命保険各社とも悲鳴をあげねばならない事態となっている。必然的に保険商品自体も予定利率（後段で解説）の低下を招き、結果として保険料が上昇し、満期金や解約時の返戻率は低下している。

生命保険は、不測の事態での家計の維持・安定には大なり小なり欠かせないだけに、保険会社および保険商品の選び方にも慎重さが求められる。同等の保険でも保険会社によって、その保険料の金額は驚くほどの違いがあることも少なくない。また、同種の保険で一見おなじように見えても、保障の内容や給付の条件が違うこともあり、A社は支払い対象であってもB社は対象外ということもある。生命保険は、不測の事態に備える「ご自身の生活維持」並びに「家族の生活防衛」であり、将来の生活に対する安定と安心を確保するものだ。かかるコストと保障の大切さを考えれば、知らなかったでは済まされない。最小のコストで最大の効果を発揮できるように、じっくりと比較検討をしなければならないものだ。

生命保険は新しいから良いというものでもない。バブル期の契約で予定利率の高い「養老保険」、「終身保険」、「年金保険」は、『お宝保険』と言われている。一方、必要保障という点では時代に合わず、見直した方が良いものも少なくない。前号まで、家計の健康診断の必要性を説いてきたが、生命保険についても改めて健康診断をすることをお勧めしたい。



● 予定利率の低下がもたらしたもの

近年、生命保険の予定利率はバブル期（1986～1991）を境にじりじりと低下を続けてきた。当時、5・5%～6・0%程度であったものが、マイナス金利政策なども影響し、今年の4月以降にはさらに引下げられ、今や1・0%を大きく下回る結果になってしまった。各保険会社の対応は様々だが、資産性の高い「養老保険」、「年金保険」、「学資保険」、「終身保険」などは保険料の値上げ、返戻率の低下、そのものの販売停止なども相次ぐ結果となってしまった。

では、予定利率とは何か？専門的な表現は抜きにして一言で言うと、「保険会社がお客様に約束している運用利回り」のことを言う。ただし、ここでいう運用利回りとは預金などに付く金利とは違うものであり、予定利率は「保険料を決める大事な要素の一つ」となっている。予定利率の高低による影響は次のようになる。

- ① 予定利率が高い⇒保険料は安く返戻率（満期金など）が高い
 - ② 予定利率が低い⇒保険料が高く返戻率（満期金など）が低い
- このように、バブル期の周辺で契約された生命保険は「お宝保険」であり、これらの保険を見直すには慎重でなければならない。既に、転換などにより姿を消してしまつたお宝保険も少なくない。お宝保険の可能性のあるものは、その内容を見極め、むやみな転換などは避け、主契約は残し特約だけを見直すことなどの部分的な対処が必要だ。このような環境・時期だけに、保険商品の見直しや商品の選択は、より慎重にならなければならない。

● 今どきの生命保険商品

【外貨建て商品の台頭】

超低金利が続く中であつて、予定利率の高い外貨建ての生命保険に加入している方も少なくない。外貨建て保険とは、積立金を外貨で運用する生命保険で、一般的に



齋藤 廣勝 (さいとう ひろかつ)
株式会社トータルライフサポート代表取締役
・CFP®ローティファイドファイナンシャルプランナー
・1級ファイナンシャルプランニング技能士
・日本商工会議所 年金・退職金等認定講師
・住宅ローンアドバイザー
・金融広報アドバイザー

保険と暮らしの相談センター

あなたの夢の実現へのお手伝い!!

相談メニュー

- ☑ 家計の総合診断（ライフプラン）
- ☑ 保険加入・見直し（生命保険・損害保険）
- ☑ 住宅取得、住宅ローンの見直し
- ☑ 子どもの教育資金計画
- ☑ 年金・老後資金計画

相談料は無料です!!

お気軽にご相談ください。

株式会社 トータルライフサポート
〒010-0916 秋田市泉北3丁目17-22
● 営業時間 / 9:00～18:30 ● 定休日 / 水曜日

TEL 018-827-7611
FAX 018-827-7610
URL http://tls-akita.co.jp

〒010-0916 秋田市泉北3丁目17-22

● 紳士服のコナカ ● エネオス
● すずきクリニック ● 当店
● マクドナルド
● かんきょう

山手十字路
洋館の
青山

詳細はホームページでもご覧いただけます。

生命保険会社が販売している外貨建て保険は、アメリカドルかオーストラリアドルで運用するものが多い。保険の種類としては、終身保険、養老保険、個人年金保険などの貯蓄性のあるものが多く、日本円以外の資産に分散投資することは理にかなっているし、選択肢の一つだ。

先にも挙げたように予定利率が高いということは、保険料が安いし、返戻率も高い。保険(保障)という観点で見れば、円建てより少ない保険料で大きな保障を得られるということにもなる。ただし外貨建ての場合、保険金・保険料・返戻金・予定利率等は当然に外貨ベースで決まっています、保証(固定)されているが、日本円での保険金などは保証されていないという点には注意が必要だ。それぞれのメリット・デメリットは下の表のようになる。

メリット	デメリット
①外貨ベースでみると貯蓄効果が高い ②為替変動により利益(為替差益)が出る可能性がある ③日本円の価値が低下(円安)するリスクに備えられる	①為替変動により為替損・元本割れになることもある ②為替変動(円安)により支払う保険料が高くなる可能性がある ③日本円と外貨間の両替で手数料がかかる(保険料支払時、保険金受取時等)

【円建てか外貨建てか?】
いずれにしても、その特徴やメリット・デメリットをよく理解した上で加入しなければならぬ。

引受基準緩和型保険

引受基準緩和型保険とは、健康状態による引き受けの基準を緩和している保険のこと。終身保険(死亡保障)と医療保険(入院・手術など)がある。緩和されているとは言ってもいくつかの条件があり、保険会社によってその条件は異なり、A社がだめでもB社はOKということもある。また、加入できる年齢も各社異なるため、保険会社間の比較は重要だ。ただし、この引受基準緩和型保険への申し込みは、あくまで通常の保険に加入できない場合の選択肢であるということだ。「持病があるから」と、通常の保険が通る可能性がありながら、通販で申し込んでいくケースが少なくない。緩和型の保険料は、当然に通常の保険料より高いし、保障内容も制限されていることが多い。それだけに、この保険に関しては特に「費用対効果」をしっかりと見極めたいものである。

収入保障保険

収入保障保険は保険会社によって名称や仕組みが異なるものもあるが、基本的な保障は、被保険者が死亡・高度障害になった場合、保険金が一括ではなく、その月から契約期間終了まで毎月定額(10万円・20万円)をお給料のように受け取れるものだ。言い方を変えれば、パバ

が亡くなった後、定年までの間、毎月延々と天国からお給料を送金してくれるという具合だ。

この保険の最大の特徴は、保険金が一括ではなく、毎月の受取であるというところにある。家計のやりくりが、毎月の連続であることを考えても、保険金が毎月安定して送金されるということが、どれほどありがたいことか?! 契約者の若い間は、家族を養っていかねければならない期間も長く、生活費はもとより、こどもの養育費やローンの返済など、多くの資金が必要となる。家族の生活を支えるという視点で見ても、理にかなった非常に効果率の良い保険だ。その上、保険料も安く、生命保険プランニングには欠かせない、「保障らしい保険」とも言える。

さらには、この収入保障保険、死亡・高度障害以外で障害状態や要介護状態にも対応できるものも出てきた。障害等級(3級〜1級)、要介護度(2以上)になった場合は死亡・高度障害と同様の保障が得られるというのだ。(※保険会社によって基準は異なります) 障害や要介護状態で働けなくなり、仕事を失った場合のリスクは、死亡リスクより高いとも言えるし、その後の家族の生活を考えれば、そんな時こそ必要な保障なのかもしれない。特に住宅ローンを返済中の方は、死亡・高度障害であれば団体信用生命保険によってその後の返済は完了するが、障害・介護状態の場合ではその後の返済も続くことになる。障害・介護に対応することで、生活の安定・安心が確保されることは、特に子育て世代や住宅ローンを返済中の方に対しての効果は高い。また、保険会社によっては、障害・介護状態・就業不能に特化した商品も登場している。死亡保障が充分に確保できている方は、より少ない保険料で加入できるように検討に値する。

先進医療保障特約

この特約は「被保険者が、厚生労働大臣が認める先進医療による療養を受けたとき、その先進医療の技術に係る費用と同額を先進医療給付金としてお支払いします」というものだ。10年ほど前から登場した比較的新しい保障だが、その内容は意外と知られていない。

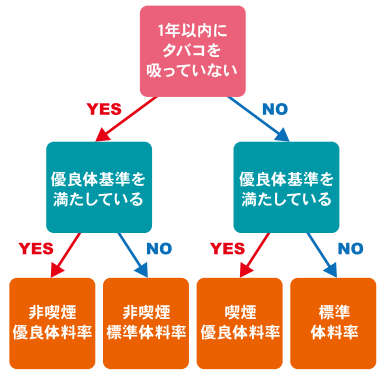
そもそも、先進医療とは何か、必要か否か? 厚生労働省ホームページにその定義があるが、「厚生労働大臣が定める高度の医療技術を用いた療養その他の療養」とあるが何やら理解しにくい。かみ砕いて言うと、大学病院などの高度な医療機関で研究・開発された医療技術であり、厚生労働省のお墨付きで安全性と治療効果は確保しているけれど、保険診療の対象とするかは検討中となっている医療のことだ。そのため現段階では、先進医療にかかる費用は患者が全額自己負担することになっており、治療内容によっては、とんでもなく高額になってしまうケースもある。どこの病院でも受けられるというものでもなく、

秋田県内にあっても、ごく限られた医療機関であったり、県内では受けられない治療も少なくない。では具体的にどんな治療があるのだろうか?

実績として、最も件数が多く報告されている治療は、白内障での「多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術」で、その費用は数十万円〜100万円を超える場合も少なくない。最も高額なのはがん治療に用いられる「陽子線治療」や「重粒子線治療」などで、300万円を超えるものもある。病気に増えていることも事実だ。費用が高くて受けられていないのか、保険加入が無いから受けられないのか!?!

非喫煙・健康体割引

こちらは保障ではないが、「喫煙状況」や「健康状態」に応じて区分し、定期保険などの保険料を割引くというもので、先に紹介した収入保障保険にも該当する。※左図参照



保険会社によって仕組みや導入された時期は異なるものの、各社とも保険料の削減効果は大きい。非喫煙は文字通り1年以内にタバコを吸っていないことを条件とし、健康体に関しては各社、BMI(18〜27)と血圧(上140未満、下90未満)の基準を設けている。これらに該当する場合は、数年前に入っていた保険でも、入り直すことで保険料が安くなる可能性が高く、特定の保険会社にこだわらずに、比較検討をされることをお勧めしたい。

来月号は:

誰もがいつかは行く道「老後に備える」と題し、その課題と対策を考えてみよう。